

国語

その①

漢字を各教科や日常生活の中で使うことができるようにしよう。

習った漢字をさまざまな文や文章の中で正しく使うことや、同音異義語に気を付けて書くことに課題が見られました。そこで本アイデア例では、日常の授業の中の短い時間で語彙を増やし、漢字の使い分けを意識するようにしていく指導事例を紹介します。なお、本アイデア例は小学校第5学年を対象としています。

課題の見られた問題の概要と結果

小A7 伝国 5, 6年(1)ウ(ア)

小A7 (1) 正答率 37.2%

問題 (お知らせの文章の中にある) 次の _____ 部のひらがなを漢字でいねいに書きましょう。

(1) 参加たいしょう

(○対象 ×対称 ×大将など)

授業アイデア例

小学校第5学年 「日常を十七音で」(9月頃)

3分でできる漢字・語彙指導!

常

教科書に新出漢字が出てきたときに、こんな学習活動を取り入れてみませんか。

漢字の意味調べ

漢字辞典

「常」には、どんな意味があるかな。漢字辞典で調べてみよう。

言葉集め・短文作り

「常」を使った言葉を集めよう。30秒でいくつ見つけられるか、やってみよう。

国語辞典

漢プリ一覧

「常」と形が似ている漢字を見付けられるかな。これまでに習った漢字から見付けよう。

「ジョウ」と読む漢字は今までに4つ習っているよ。思い出せるかな。

教科書巻末

字形・筆順の確かめ

同音異字の復習

ポイント

漢字指導は繰り返し書かせることも大切ですが、この他に、対義語・類義語・二字熟語を思い起こすことができるようにするなど、子ども自らが語彙の質を高め、量を増やす活動を工夫してみましょう。

定着状況の見届け

日記やノート、掲示物などで、学習した漢字を適切に使っているかを見届けて、漢字を使いこなせるようにしましょう。間違えた漢字は必ず訂正するようにしましょう。 [学校生活における書字場面]

その他、関連した指導について

- 「どの子ども学プリ」を使って、下学年の既習漢字を練習し、確実に書くことや読むことができるようにしましょう。
- 他の教科においても、習った漢字は必ず使えるように見届けましょう。

参照▶「平成29年度 解説資料 小学校国語」P36～38

有効に活用ください!

漢字指導の充実を図る
小学校・漢字
1,006字

どの子ども学プリ

- 漢字の読み書きは、全ての学習の「できる・わかる」につながります。
- 漢字の読み書きは、思考力や表現力、コミュニケーション能力を高め、日常生活を楽しめます。
- 漢字の読み書きは、様々な問題を解決する時に生かされ、幸せな未来を創ります。

(平成29年2月 経典部教育委員会 学校完備課)

交流を通して、自分の考えを広げたり深めたりできるようにしよう。

自分の考えを広げたり深めたりする話し合いの中の発言の意図を捉えることに課題が見られました。そこで本アイデア例では、文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができるようにする指導事例を紹介します。なお、本アイデア例は小学校第3学年を対象としています。

課題の見られた問題の概要と結果

小B3 物語を読んで、感想を伝え合う（5、6年Cオ）

小B3 正答率 31.9%

言語活動例

【第3学年及び第4学年】 C 読むこと
ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。

授業アイデア例

小学校第3学年 「もうすぐ雨に」（6月頃）

「ふしぎな出来事に出会った登場人物の、行動や気持ちに気をつけて読み、『おもしろいな。』『すきだな。』と思ったところを、グループで発表し合おう。」

「交流」ここが大事！

友だちと同じところと違うところを意識して話す、聞く。

そのために

こんな言葉を使って交流しましょう。

ポイント

- どこからそう思ったのですか。
- AさんとBさんの同じところはどこですか。
- AさんとBさんの違うところは～ですね。



おもしろかったところや好きなところを、グループで話し合しましょう。

- ② ぼくも好きなところは同じだけれど、そう思った理由が違って、トラノスケが「ふん。」とか「だ。」と言っているところから、ねこだって遊んでばかりじゃないんだぞと、ちょっと怒っている感じがして、おもしろいです。



- ① わたしが好きだなと思ったところは、チリンと音がして、トラノスケが「ふん。遊びに行くんじゃないよ、だ。」と、ぼくのつぶやきに返事をしているところです。理由は、そのことでぼくが「言うはずないよね。」とふしぎがっているからです。

- ③ 好きなところは同じだけれど、そう思った理由が違っていたね。確かにトラノスケの言い方はおもしろいね。他のところのトラノスケの言い方はどうですか。

定着状況の見届け

自分の考えと同じところや違うところを比べながら話したり聞いたりできているか、子ども同士で評価し合えるようにしましょう。一人一人の感じ方が違うことに気付くよう交流することで、作品を豊かに読み味わえた実感をもてるようにすることが大切です。[グループ発表等]

ポイント

高学年になると、こんな言葉を使って交流することができるようになります。

- それは、どこからそう思ったのですか。
- ○○さんの伝えたいことは、～～ということでもいいですか。
- ◇◇とも考えられると思いますがどうですか。
- 他にも考えられるところはありますか。

その他、関連した指導について

- 低学年では、文章の内容と自分の経験とを結び付けながら、思いや考えをもつことができるようにすることが大切です。
- 高学年では、それぞれに考えたことが、どのように共通していたり相違したりしているのかなどを明らかにしながら、自分の考えを広げ深める過程となっていることが重要です。

必要に応じて自ら言葉を選び、使うことができる言語活動にしよう。

事象や行為などを表す多様な語句について理解することや、適切な言葉を考えることに課題が見られました。そこで本アイデア例では、もっと「伝わる」表現を目指して、三年間を通じて言葉を「集めること」「比べること」「選ぶこと」によって語彙を増やしていく指導事例を紹介します。なお、本アイデア例は中学校第1学年を対象としています。

課題の見られた問題の概要と結果

中A 9 伝国 1年(1)イ(ウ)

中A 9五 正答率 19.7%

問題（話し合い後の板書に）に適切な漢字を三字以内で書く。

2 登校時間に校門の前であいさつや呼びかけを行う。

再検討

授業アイデア例

中学校第1学年 「言葉を集めよう」(7月頃)

- 自分が感じた食べ物のおいしさを、「おいしい」を使わずに、読み手にも感じてもらえるように言葉の選び方を工夫し、百字程度で紹介文を書く。**辞書使用**
- 写真を例に、生徒がそれぞれ書いた紹介文をグループで読み合い、言葉の選び方を工夫し、読み手にも感じてもらえるようになっているかどうかを検討する。**辞書使用**

[生徒の紹介文の下書きの例 (一部)]



濃厚なスープにからむ麺。豚骨の味を十分に吸っているにもかかわらず、コシがすごい。口の中に麺のコシと豚骨のコクが広がる。すぐにスープをすすって飲みたくなる味だ。

伝えたいことや気持ちに合った表現にするためには、普段から言葉を蓄え、必要に応じて使うことが大切です。「五感に響く表現」「表現技法」「修飾語の工夫」「描写の工夫」といった工夫を自分で考え、使ってみる過程が必要です。これを行うと、言葉のニュアンスの違いが分かりますよ。

① 食べているところを想像できると、よりおいしそうだね。

② 「十分」「すすって」という言葉は、想像してもらえるように、詳しくできるといいな。

③ 見た目や味のことも表現したらどうかな。



- 相手に想像してもらうように表現するとおいしさが伝わる。(相手意識)
- 自分が伝えたいイメージに適した言葉を、辞書等を使って調べると、選ぶ語彙が増える。(目的意識)

ポイント

- グループで検討した内容について学級全体で交流し、おいしさを読み手にも感じてもらえるようにするための観点を確かめる。

- 各自で見直し、紹介文を書き直す。**辞書使用**

[書き直した文章の例] (___が評価・指導したい箇所)

黄金色に輝くスープに広がる、鮮やかなピンク色のチャーシューと肉みそ。レンゲでスープをかき混ぜ、ズブツブと麺をすすってみると、豚骨の味がどんどんからみます。口の中で麺のコシとスープのコクを同時に味わうことができるこの味は、一度食べ出したら、もう止まりません。

定着状況の見届け

評価の中で、よりよい表現となった箇所を明らかにし、自己の変容を自覚することができるようにしましょう。

言葉を目的や意図に応じて使い分けることの必要性や、そのよさが実感できる評価を工夫しましょう。 [発言・ノート・作品等]

その他、関連した指導について

- 第1学年の学習を受け、第2学年では「比べる」、第3学年では「選ぶ」をテーマに、語句の微妙な意味の違いを理解し、使い分ける学習を系統的に行いましょう。
- 本単元の学習を「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習につなげ、それぞれの力を高める手段として一人一人が活用することができるまで継続的に指導していきましょう。

対話を通して表現の特徴を吟味し、自分の考えに結ぶ言語活動にしよう。

表現の仕方について捉え、自分の考えを書くことと、交流を通して自分の考えを広くすることに課題が見られました。そこで本アイデア例では、互いの見方や考え方を踏まえながら、自分のものの見方や考え方を広げていく指導事例を紹介します。なお、本アイデア例は中学校第3学年を対象としています。

課題の見られた問題の概要と結果

中B1 文学的な文章を読む（1年Cエ）

中B1三 正答率 38.2%

言語活動例

【第2学年】 C 読むこと

ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。

授業アイデア例

中学校第3学年 「俳句の可能性」（7月頃）

- ① テキストから俳句の鑑賞の仕方を学ぶとともに、各自で気に入った俳句を選んで鑑賞文の下書きを書く。
- ② 書いた文章をグループで読み合い、筆者の感動の中心を捉え、自分の考えが伝わる鑑賞文になっているかどうかを検討する。

〔鑑賞文の下書きの例〕

どの子にも涼しく風の吹く日かな 飯田龍太

夏の昼下がり、汗をいっぱいにかいて遊んでいた子どもたちも木陰で一休みしている。そこへ吹いてきた涼しい風。心地のよい風が吹き抜ける今日という日に、筆者は強い感動を覚えたのであろう。

筆者の感動に対する自分の解釈を書いた部分に下線を引いて、その部分を中心に検討しましょう。

① 鑑賞文のまとめの部分、これで感動は伝わるかな。

② 心地のよい「風の吹く日」に、筆者の感動の中心があるのかしら。



③ 「どの子にも」とあるから、ある特定の子だけではなく、みんなに平等に涼しく風が吹いたということだね。

④ 一人一人に分け隔てなく涼しく風が吹いたから、より心地よく感じられたのかもしれないし、そんな素敵な日に筆者は感動しているんだね。

ポイント

- ③ グループで検討した内容について学級全体で交流し、筆者の感動の中心を捉え、自分の考えが伝わる鑑賞文にするために必要な情報（根拠）や記述を確かめる。

- 筆者の感動の中心と表現の仕方を結び付けて考える。
 - ・ものの見方や感じ方が表れている語句
 - ・表現の仕方（切れ字・表現技法）
- 工夫や効果を読み味わう。

- ④ 各自で文章を見直し、鑑賞文を書き直す。

〔書き直した文章の例〕（__が評価・指導したい箇所）

夏の昼下がり、汗をいっぱいにかいて遊んでいた子どもたちも木陰で一休みしている。そこへ吹いてきた涼しい風。一人一人の子どもに分け隔てなく心地のよい風が吹き抜ける今日という日に、筆者は強い感動を覚えたのであろう。

定着状況の見届け

最初に書いた鑑賞文と書き直した鑑賞文を比較することで、自分の読みがどのように広がったのかを確かめられるようにしましょう。その内容をペアやグループで更に交流したり、教師が紹介したりして、一人一人に自己の変容の自覚を促すことが大切です。〔作品等〕

その他、関連した指導について

- 授業後に、生徒が書き直した鑑賞文に目を通し、学習状況が不十分な生徒に対しては、コメントを書いた付箋を鑑賞文に付けるなどして、返却時に個別に指導することが考えられます。
- 次時の導入時に、つまづいている生徒を教室の一隅に集めて指導し、その上で清書できるようにするなど、学習状況に応じた小集団への指導も考えられます。